

事業所における自己評価結果

事業所名	わくわくハウス スポーツ未来校
------	-----------------

実施年月日 ： 2025年12月3日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用定員を踏まえた空間設定を行い、活動内容に応じてスペースを柔軟に活用することで、子どもが安心して過ごせる環境づくりに努めています。	利用状況に応じたスペース活用のさらなる工夫や、混雑時でも安全かつ快適に過ごせる環境整備の継続的な見直しが必要です。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用児童の人数や特性に応じて職員配置を調整し、個々に寄り添った支援が行えるよう体制づくりに努めています。	利用状況の変化に応じた柔軟な人員配置や、より専門性を高めた支援体制の強化が今後の課題です。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		視覚的な表示やゾーニングにより空間を分かりやすく構造化し、障害特性に応じた環境配慮や安全で過ごしやすい設備整備に努めています。	子どもの特性や成長に応じた環境調整や情報伝達の工夫をさらに高め、より一層分かりやすく安心できる環境づくりが課題です。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		日々の清掃や整理整頓を徹底し、活動内容に応じた空間づくりを行うことで、子どもが快適に安心して過ごせる環境を整えています。	利用人数や活動内容に応じた空間調整をさらに工夫し、より快適で過ごしやすい環境づくりを継続していく必要があります。
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個々の状態やニーズに応じて落ち着けるスペースを確保し、安心して過ごせるよう柔軟に個別対応ができる環境づくりに努めています。	利用状況に応じた個別空間の確保や活用方法の工夫をさらに進め、より安心して過ごせる環境整備が求められます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		定期的な会議や振り返りの機会を設け、職員全体で意見を共有しながらPDCAサイクルを活用した業務改善に取り組んでいます。	より多くの職員が主体的に参画できる仕組みづくりや、意見を反映しやすい環境の整備が今後の課題です。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者評価や日々の連絡を通じて意向を丁寧に把握し、その内容を職員間で共有しながら業務改善に活かしています。	いただいた意見をより具体的な改善につなげる仕組みや、結果の見える化を進めることが今後の課題です。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的な会議や日々の情報共有を通じて職員の意見を把握し、現場の声を反映した業務改善に取り組んでいます。	意見をより幅広く収集し、迅速に改善へつなげる仕組みづくりや共有方法の充実が今後の課題です。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		外部評価や第三者の視点を参考に、客観的な意見を取り入れながら業務改善につなげる取組を進めています。	外部評価の実施機会の拡充や、評価結果をより具体的な改善へ反映させる仕組みづくりが今後の課題です。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修や内部研修の機会を設け、職員の専門性向上と支援の質の向上に継続的に取り組んでいます。	研修内容の充実や参加機会の均等化を図り、より実践に活かせる学びの機会を拡充していくことが課題です。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援内容を明確にしたプログラムを作成し、分かりやすく公表することで、透明性のある支援体制づくりに努めています。	より分かりやすい情報発信や定期的な見直しを行い、利用者や保護者に伝わりやすい公表方法の工夫が課題です。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	アセスメントの精度向上や情報共有の充実を図り、より個性の高い支援計画の作成を進めていくことが課題です。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		関係職員で情報共有や意見交換を行い、共通理解のもと子どもの最善の利益を考慮した支援計画の検討に努めています。	より多角的な視点を取り入れるため、職員間の連携強化や意見共有の機会をさらに充実させることが課題です。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画を職員間で共有し、日々の支援に反映することで、統一した方針のもと継続的な支援が行えるよう努めています。	情報共有の精度やタイミングを高め、全職員がより理解しやすい仕組みづくりを進めていくことが課題です。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の行動観察に加え、必要に応じて評価ツールも活用し、子どもの状況を多角的に把握できるよう努めています。	標準化された評価ツールの活用機会をさらに充実させ、より客観性の高いアセスメント体制の強化が課題です。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに基づき、本人・家族・移行・地域支援の視点を踏まえ、個々に応じた具体的な支援内容の設定に努めています。	各支援内容の関連性をより明確にし、具体性や実効性を高めた計画作成のさらなる充実が課題です。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員間で意見交換を行いながら活動プログラムを立案し、多様な視点を取り入れた支援内容の充実に努めています。	より多くの職員が主体的に関われる体制づくりや、意見を反映しやすい仕組みの強化が今後の課題です。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子どもの興味や発達段階に応じて活動内容を見直し、多様なプログラムを取り入れることで、飽きのこない支援に努めています。	新しい活動の導入やバリエーションの拡充を進め、より一層魅力あるプログラムづくりを継続していくことが課題です。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの特性や発達段階に応じて個別活動と集団活動を組み合わせ、バランスの取れた支援が行えるよう計画しています。	個々の状況に応じた活動の組み合わせをさらに工夫し、より効果的な支援につなげていくことが課題です。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援前に打合せを行い、支援内容や役割分担を共有することで、職員間の連携を図り、統一した支援に努めています。	打合せ内容の質の向上や情報共有の精度を高め、より円滑で効果的なチーム支援体制の強化が課題です。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援後に振り返りの機会を設け、気づきや課題を職員間で共有し、次の支援に活かす取組を行っています。	振り返り内容の充実や共有方法の工夫を進め、より具体的な改善につなげる仕組みづくりが課題です。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援内容を記録し、職員間で共有することで、支援の振り返りや改善につなげる取組を継続しています。	記録の質や活用方法をさらに高め、より具体的な支援改善に結びつける仕組みの強化が課題です。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを実施し、子どもの状況や変化を踏まえながら、支援計画の適切な見直しに努めています。	モニタリングの精度向上や情報共有の充実を図り、より効果的な見直しにつなげていくことが課題です。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	○		ガイドラインの4つの基本活動を意識し、複数の活動を組み合わせることで、子どもの発達を多面的に支える支援に努めています。	各活動のねらいをより明確にし、効果的に組み合わせる支援の質向上を図ることが今後の課題です。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動内容や関わり方を工夫し、子どもが自ら選択できる場面を設けることで、自己決定力の育成につながる支援を行っています。	個々の発達段階に応じた選択肢の提示や支援方法の工夫をさらに高め、主体性をより引き出す取組が課題です。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		子どもの状況を把握した職員が会議に参加し、関係機関と情報共有を行いながら連携した支援体制づくりに努めています。	関係機関との連携をさらに強化し、情報共有の質や頻度を高めることで、より効果的な支援につなげるのが課題です。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関と情報共有や連携を図り、子どもの状況に応じた支援が行える体制づくりに努めています。	連携の機会や情報共有の質をさらに高め、より一層効果的な支援体制の強化を図ることが課題です。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校と定期的に情報共有を行い、行事予定や下校時刻の確認、送迎時の連携など円滑な支援体制の構築に努めています。	情報共有の精度や迅速性をさらに高め、緊急時も含めた連絡体制の強化を図ることが今後の課題です。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		就学前の関係機関と情報共有を行い、子どもの特性や支援歴を踏まえた継続性のある支援に努めています。	連携の機会や情報共有の充実を図り、より円滑な移行支援と相互理解の強化が今後の課題です。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		移行先事業所へ支援内容や特性に関する情報提供を行い、円滑な移行と継続的な支援につながるよう努めています。	移行支援の機会や関係機関との連携をさらに強化し、よりスムーズな引継ぎ体制の充実が課題です。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センターと連携し、助言や研修の機会を活用することで、専門性の向上と支援の質の向上に努めています。	連携の機会をさらに拡充し、継続的にスーパーバイズや研修を受けられる体制の強化が課題です。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	地域との関わりを意識し、外出活動や交流の機会を取り入れることで、社会性を育む支援に努めています。	放課後児童クラブや児童館との交流機会をさらに拡充し、地域の子どもとの関わりを深めていくことが課題です。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	関係機関との連携強化を目的に、協議会等への参加を通じて情報収集や地域課題の共有に努めています。	参加機会の拡充や得られた情報の事業所内での共有を強化し、支援の質向上につなげるのが課題です。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳や送迎時のやり取りを通じて日々の様子を共有し、保護者と共通理解を深めながら支援に活かしています。	情報共有の頻度や内容の充実を図り、より丁寧で分かりやすい伝達方法の工夫が今後の課題です。
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	保護者への助言や情報提供を行い、家庭での関わり方の理解が深まるよう支援に努めています。	家族支援プログラムや研修機会の充実を図り、より実践的な支援につながる取組の強化が課題です。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時や日々の説明の中で、運営規程や支援内容、利用者負担について分かりやすく丁寧に説明するよう努めています。	より理解しやすい説明方法や資料の工夫を行い、保護者が安心して利用できる環境づくりの強化が課題です。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談や日々のやり取りを通じて、子どもや保護者の意向を丁寧に確認し、最善の利益を踏まえた計画作成に努めています。	意向確認の機会や方法をさらに充実させ、より主体性を尊重した支援につなげていくことが課題です。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		支援計画を提示しながら内容を丁寧に説明し、保護者の理解と納得を得た上で同意をいただくよう努めています。	より分かりやすい説明方法や資料の工夫を行い、保護者が十分に理解できる支援説明の充実が課題です。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者からの相談に丁寧に応じ、面談や日常のやり取りを通じて助言や支援を行い、安心して相談できる関係づくりに努めています。	相談機会の充実や対応の質を高め、より保護者の不安軽減や支援につながる体制の強化が課題です。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		○	保護者同士の情報交換や交流の機会を意識し、安心して関わり合える場づくりに努めています。	保護者会やきょうだい交流の機会をさらに充実させ、多様なニーズに応じた交流支援の拡充が課題です。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応の体制を整え、保護者へ周知するとともに、迅速かつ丁寧な対応を心掛け、信頼関係の構築に努めています。	苦情対応の流れのさらなる明確化や共有を図り、より安心して相談できる体制の充実が課題です。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		通信やSNS等を活用し、活動内容や行事予定を分かりやすく発信することで、保護者との情報共有に努めています。	発信内容や頻度の充実を図り、より見やすく分かりやすい情報提供の工夫を進めていくことが課題です。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の管理方法を職員間で共有し、取扱いに関する意識を高めることで、適切な情報管理の徹底に努めています。	定期的な研修や確認を通じて、さらなる意識向上と管理体制の強化を図っていくことが課題です。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		個々の特性に応じた伝達方法を工夫し、視覚的支援や丁寧な説明を行うことで円滑な意思疎通に努めています。	多様なニーズに対応できる伝達手段の充実や職員の理解向上を図り、より適切な情報共有体制の強化が課題です。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域とのつながりを意識し、行事や活動を通じて地域に開かれた事業所づくりに努めています。	地域住民との交流機会をさらに拡充し、継続的に関わりを深められる取組の強化が課題です。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを整備し、職員への周知や定期的な訓練を実施することで、安全で安心な支援体制づくりに努めています。	訓練内容の充実や周知方法の工夫を行い、より実践的で迅速な対応力の向上を図ることが課題です。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、定期的な避難訓練等を実施することで、非常時にも安全に対応できる体制づくりに努めています。	訓練内容の見直しや実践性の向上を図り、より迅速かつ適切に対応できる体制強化が課題です。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		事前に健康状態や服薬状況等を確認し、個々の状況に応じた安全で適切な支援が行えるよう努めています。	情報共有の精度や更新のタイミングを見直し、より確実で迅速な対応体制の強化が課題です。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師の指示書を基に情報を共有し、個々のアレルギーに配慮した安全な対応ができるよう体制づくりに努めています。	確認体制のさらなる徹底や職員間の情報共有の強化を図り、より確実な対応につなげることが課題です。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を基に研修や訓練を実施し、職員の意識向上を図ることで、安全で安心な支援環境の整備に努めています。	訓練内容や安全対策の見直しを継続し、より実践的で確実な安全管理体制の強化が課題です。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画に基づく取組内容を保護者へ説明し、情報共有を行うことで、連携した安全確保に努めています。	周知方法の工夫や情報提供の充実を図り、より理解しやすく安心できる体制の強化が課題です。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例を記録・共有し、職員間で振り返りを行うことで、再発防止に向けた意識向上に努めています。	事例の分析や改善策の具体化を進め、より実効性の高い再発防止対策の強化が課題です。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止に関する研修を実施し、職員の理解と意識向上を図ることで、適切な支援の提供に努めています。	研修内容の充実や継続的な学びの機会を確保し、より実践的な対応力の強化が課題です。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束の必要性について組織的に検討し、保護者へ丁寧に説明・同意を得た上で計画に明記するよう努めています。	説明内容の充実や共有体制の強化を図り、より理解と納得を得られる対応の向上が課題です。